参考資料２

◆おてんとさんの市民共同発電所について◆

2022 年 12 月 16 日

特定非営利活動法人　サークルおてんとさん
（一般社団法人地域未来エネルギー奈良）
理事長　清水順子

１．市民共同発電所９機を設置（10 機目を計画中）
それぞれ資金調達方法が異なる

2004 年 3 月　**あすなら苑**おてんとさん発電所　20ｋW ➡ グリーン電力証書販売 環境価値を証書化
2007 年 2 月　**ならのは**おてんとさん発電所　10ｋW
2011 年 3 月　**あすなら保育園**おてんとさん発電所　10.4ｋW　カーボンオフセットで活動を実施した

FIT 制度導入

2014 年 1 月　**あすなら苑第 2** おてんとさん発電所　10ｋW　**全量売電**
（*2014 年 5 月　市民ファンドによる「恋の窪未来発電所@ならコープ」49・6ｋW　全量売電）*
2017 年 3 月　**うだ夢創の里**市民共同発電所　9.4kW　余剰売電
2018 年 2 月　**あすならホーム西の京**発電所（奈良市補助）6.42ｋW（5.6ｋWh 蓄電池）全量消化
2019 年 11 月　**かかしの会**発電所（奈良市補助）　6.25ｋW（5.6ｋWh 蓄電池）余剰売電
2021 年 1 月　**ア。ウン。パヴィリオン**発電所　22.2ｋW　全量売電
2022 年 3 月　**あすならホーム西の京サロン棟**発電所（奈良市補助）6.04ｋW（5.6ｋWh 蓄電池）余剰売電
2023 年 3 月　**きららの木**発電所完成予定（奈良市補助）　7.5ｋW（5.6kWh 蓄電池）全量消化

寄付活動とともに、関係者で完成披露会を開催し地域で祝う。
完成後、設置施設から報告された発電量を、おてんとさんの Web サイトに掲載。
施設の職員や利用者向けに啓発講座を実施。
市民の力を合わせて作った 9 か所合計１００．７１ｋW のおてんとさん太陽光市民共同発電所により、2004 年 3 月から 2022 年 11 月末現在まで累積**８９９，７１４．６ｋWh** のクリーンなエネルギーを生み出している。

２．地域団体・市民と連携した社会活動への取り組み状況

市民共同発電所づくりでは福祉施設（高齢者福祉・障がい者福祉）や地域の配食サービスや農林業の活性化を担う拠点に設置し、光熱費などの固定費の負担を軽減させ活動を支援している。
事例：社会福祉法人協同福祉会（あすなら苑、あすなら保育園、あすならホーム西の京）、
社会福祉法人ならのは（障がい者福祉施設）、NPO 法人うだ夢創の里（地域の居場所配食）
認定 NPO 法人かかしの会（障がい者福祉施設）
ア。ウン。パヴィリオン（オランダからの移住者。奈良市須川の活性化に寄与）
EV 車を個人で購入しＶ２Ｈを設置し、ガソリンスタンドがなくなりつつある山間地での自動車の電源確保を試行している。若者を呼び込み農業やアート、民泊などの展開を模索中
関与者：福祉関係者、生協、地域の関係者、自治体関係者、環境 NPO、地域おこしの若者など

３．課題認識（特に地域未来エネルギー奈良での調査から）

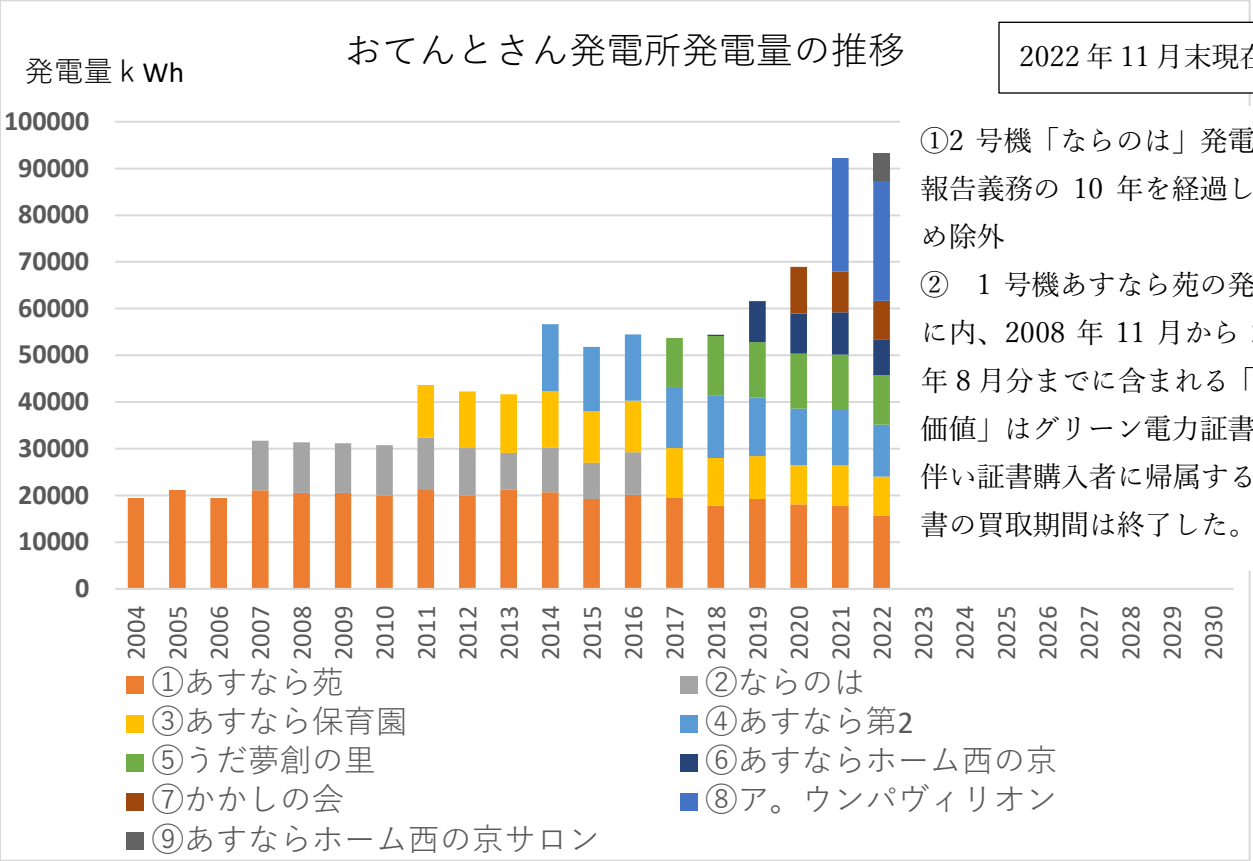
・山間地域で送電線網が脆弱で接続できないため、再エネ優先接続のエネルギー政策が必要

・熱利用では、太陽熱温水器は温水を大量に使用する高齢者福祉施設では有効と評価されている（協同福祉会）。一般家庭でも有効だが、電気と異なり買取制度はなく、お得感が乏しいため導入動機は太陽光発電に負ける。

・木質バイオマス熱利用では温浴施設のボイラー改修時がチャンスだが、林業とセットでなければコストが大きくなる。また、施設の敷地の広さや燃料に何を使うのかでコストが異なる。熱の買取制度が、一部自治体である。ゼロカーボン実現には太陽熱、バイオマス熱利用も駆使する必要あり。

・障がい者・高齢者福祉施設では電気代高騰で経営が苦しくなっている。また障がい者への対応から停電の危機感も大きく、蓄電池に対する期待は今まで以上に大きい。今後も補助などで対策が必要。

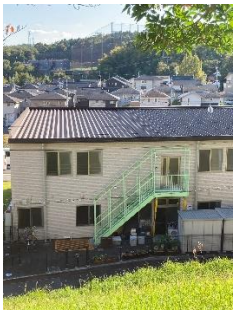
資料　　おてんとさん市民共同発電所の発電量の推移など



①2 号機「ならのは」発電量は報告義務の 10 年を経過したため除外

②　1 号機あすなら苑の発電量に内、2008 年 11 月から 2014 年 8 月分までに含まれる「環境価値」はグリーン電力証書化に伴い証書購入者に帰属する。証書の買取期間は終了した。

奈良市須川の古民家を改装し活性化させている（アウンパヴィリオン）



10 号機計画

認定 NPO 法人きららの木